



菊池 巳喜男 議員 (清風会)

一問一答方式

【その他の質問】
知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指した学力向上対策の内容は。

再生可能エネルギーへの取り組みは

問……………

再生可能エネルギー資源を生かしたまちづくりを、プロジェクトチームを立ち上げて検討されているが、どのように進めていくのか。

答……………

チームスタッフに「プラチナ構想スクール」を受講した4人を充て、検討報告を待っている状況であり、平成26年度で素案を成案にするべく事業を立ち

上げる。その後、平成27年度から28年度に事業の具体策を検討して行きたい。

問……………

キャトルセンター等から大量に発生する糞尿を活用し、バイオマスをガスプラント導入により、廃棄物が資源として有効利用され産業の活性化が期待されるが、検討してはどうか。

答……………

平成26年度からは段

問……………

木工団地内へのチップ化工場の整備によって、豊富な森林資源を活用した木質バイオマス発電が可能となるのでは。その事により、雇用創出、売電による収益確保も期待できると考えるが、導入を検討すべきではないか。

答……………

バイオマスの活用は、ゴミとして捨てられていたものを資源として再利用し、熱や電気といったエネルギーを得ることを可能とする。さらに、資源調達やプラントの運用のため、一定の雇用創出も期待されることから、優先して取り組むべき施策であると考えている。

農業委員会と農地中間管理機構との役割は

問……………

この4月から岩手県でも農地中間管理機構を岩手県農業公社が担うことになっているが、農業委員会はどのように把握し対応していくのか。

答……………

農家の所得向上を図

るため、農業委員会は市と連携し総力を挙げて農地中間管理事業に取り組み、対応していく。



バイオマスパワーしずくいしの案内板



多田 勉 議員 (清風会)

一括質問方式

時代の変化に対応したまちづくりは

問……………

市長選の際に新聞掲載された「当市の課題」の中で求められていたストロー現象と、人口減少や公共施設の活用及びまちづくりに対する総合力を発揮するための対策に關し、時代の変化に対応したまちづくりが必要ではないか。

答……………

交通インフラ整備とSL銀河運行を契機

に、交流人口の拡大及び宮守町めがね橋周辺の活性化に向け、今後

も改修を図っていく。人口減少に対応した地域コミュニティ再編については、第2次遠野市進捗まちづくり検証委員会の検証結果を基に再構築し、地域を活力あるものにした

い。今まで整備した公共施設の活用では、防災センター、あすもあ遠野、観光交流センター、総合食育センターなど、目的に沿った活

用に努めているが、更なる活用の充実に取り組んでいく。まちづくりに対する官民の枠を超えた総合力の発揮を促進するため、若者たちが自ら企画運営する事業の展開をサポートしていく。

また、4月から旧土淵中学校で民間による人材養成として「遠野みらい造りカレッジ」がスタートすることになっている。

市内高校に特徴ある学科の創設要望を

問……………

県教委は「第2次県立高校整備計画」の策定を、26年度から再開する方針を固めた。結果が出る前に他から生徒を呼び込むためにも、本市として特徴ある学科の創設要望や提案をすべきでは。

答……………

市内高校のいずれも



3月2日に行われた遠野緑峰高等学校卒業式での花鉢贈呈の様子

定員割れになっている。

生徒数の減少もあるが、市外高校を目指す生徒や専門分野を志す生徒もいることが要因

生徒の夢や希望を叶える学科の特待生の新創設なども考えられる。

市の関与には限界があるが、農林業など幅広い分野における地域の特性を活かした人材を育成するため、市内高校との連携を強化し、提案等をしていきたい。